



<発表資料>

- 社史・アーカイブ総合研究所 -

社史制作中に困ったこと

社史制作は短くて1年、長くて5年は掛かる大プロジェクトです。制作前・制作中・制作後において、さまざま問題・課題に直面しながら一つの社史を仕上げていく編纂プロセスは、まさに歴史を編むという大仕事です。実際に社史制作をご経験された社史担当者の方々からお話を伺い、各プロセスで「困ったこと」をまとめてきました。

今回は『社史の制作前の段階でどのような点で困ったのか』を取り挙げました。今回は、制作中の段階に照準を当て『社史制作中に困ったこと』をご紹介します。弊所で行ったヒアリング調査結果の中で、上位をご紹介します。制作フェーズの中で、どのような問題に直面するのか、これから社史制作という大きな船出を迎える方のご参考になりますと幸いです。

社史制作中に困ったこと

1位 資料・データの収集

社史の制作にあたって最も困ったという回答が多かったのが、資料やデータの収集です。過去の資料を集め、整理し、重要なコンテンツに分類し、社史構成に落とし込むために、まず資料やデータを集めることは必須の作業です。社史をつくるにあたって、資料やデータの収集にどう取り組むのか、最初に方針を決めて進めていくことが大切になってきます。

■ 困った ■ 困らなかった

困った
67.6%

困らなかった
32.4%

— ご担当者様の感想例 —

「創業当時の情報が少なかった。70年前のことなので、もう少し前に作って聞き取りしておいたらよかった。年がたつと記憶があいまいになってくるので、予想しなければならなくなる」

「資料がないので、いかに集めるかが課題だった。資料がなく取材中心になったため、細部までは確定できず、どこまで検証して詰めたらいいいのか、マンパワーと時間の関係で難しかった。考えて対処しながら急がなければならなかった」

「資料が整理されていなくて散逸しているものもあったので、いざとなるとドタバタした。また最近のものはデータで残しているのに、数多く膨大になっていて大変だった」

「文章だけだと読まれないので、写真を多く思ったが、写真集めには苦労した。日頃の積み重ねが大切だと思った。また、写真は集めただけでは何の写真か本人しかわからないので、整合をとるのに苦労した。またバブル崩壊やリーマンショックなどで経営危機を迎えた会社は、社内報の制作をカットしてしまっているの、そこで過去が分断しているので、どう埋めるかに苦労した。」

社史制作中に困ったこと

2位 スケジュール管理

社史を作る過程で資料やデータ収集の次に苦勞するのが、スケジュール管理です。スケジュールに関しては、最初におおまかなスケジュールが決まっていってそれに合わせて作業をしようとしてもなかなか思ったようにいかないことが多いものです。

資料やデータを集めてほしいと依頼しても持ってきてもらえずに催促したり、確認したらなかったと言われて再度対応し直したり、原稿チェックのお願いをしてもやってもらっていないかったりとスケジュールに余裕を作っておかないと相当のストレスとなりそうです。

さらに記念式典までに作りたいとか、設立記念日に配布したいというように期限が決まっていることが多いため、残りのスケジュールに余裕がなくなるとますます管理するのが大変になりかねません。

同じように困った担当者が多いことがわかると、その対策としてスケジュールに余裕としてのバッファを入れておく必要があるということがわかってくると思います。

■ 困った ■ 困らなかった



— ご担当者様の感想例 —

「最初の担当時は合計2年半、二度目は合計1年のスケジュールだったが、どちらも最後が忙しかった。社内関係者は期日が迫らないといくら早めに言っても本気にならないので仕方がないのだが、それでも知識経験があると早めに尻叩きできるので早め早めに言うようにした。」

「限られた時間の中でバタバタと作業を進めたため、スケジュール管理の重要性を非常に感じた。」

「2週に1回くらい定期的に日にちを決めてやってきてくれて進捗状況や困っていることを確認してくれて非常に良かった。予定があるときだけ来るというのではなく、定期的に日にちを決めておいてもらえると、その日までこれをやっておかなくちゃと思えるため、周年史事業に定期的に触れることになり助かった」

社史制作中に困ったこと

3位 資料・データの管理・保管

資料やデータを集めても、全部使えるわけではありません。場合によっては使う枚数の何十倍何百倍という資料やデータ、写真などを集める必要があります。

その資料やデータ、写真などをしっかり管理しておかないと使うときに困ることになりかねませんし、返却時に多大な労力がかかることになってしまいます。資料やデータの管理・保管にも収集と同じく細心の注意を払っておきたいものです。

■ 困った ■ 困らなかった



— ご担当者様の感想例 —

「スポットスポットでデータを残しておくことの重要性がわかった。スポットで拾っておくことが大切。」

「資料やデータはきちんと残しておかなければいけないとは思いますが、つつい本業が先なので後回しになってそのままになってしまう。」

「社内に資料が全くなかったのは、資料を保管してあった社屋を取り壊したときに、その中の資料も一緒に処分してしまったから。その当時は、社史を作ることになるとは全く思ってもみなかった。」

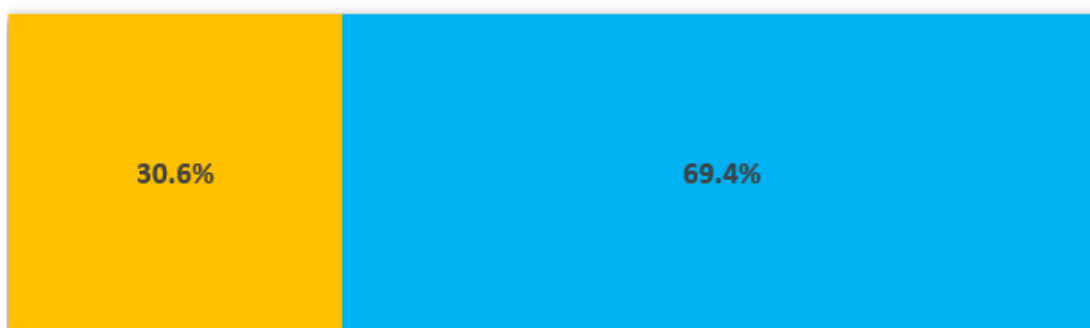
社史制作中に困ったこと

4位 ライターの質

今では社史の原稿を自分で書くということは少なくなり、ライターにお願いすることがほとんどになってきました。その際に最も問題になりやすいのがライターとの相性です。

原稿のイメージが予想していたものと違っていたり、修正指示がうまく伝わっていなかったりということが起こることがあります。しばしばコミュニケーションできる場合は徐々に修正できていくのですが、時間がなくて難しかったという場合もあります。なるべく簡潔にはっきりした指示を最初からこころがけて、しっかりとコミュニケーションをとることがやはり大切になってくると言えるでしょう。

■ 困った ■ 困らなかった



—ご担当者様の感想例—

「ライターはよかったが、後工程になって追加しないといけなくなった時にライターがはずれた後だったので社内で追加したのだが、ライターの文章と同じトーンになるように苦労した。」

「知識量が豊富で助かった。取締役のインタビューでも業界の具体的知識があってあの頃はこうだったとか言いながら進められたのですごくよかった。」

※ヒアリング調査実施企業数・・・201社

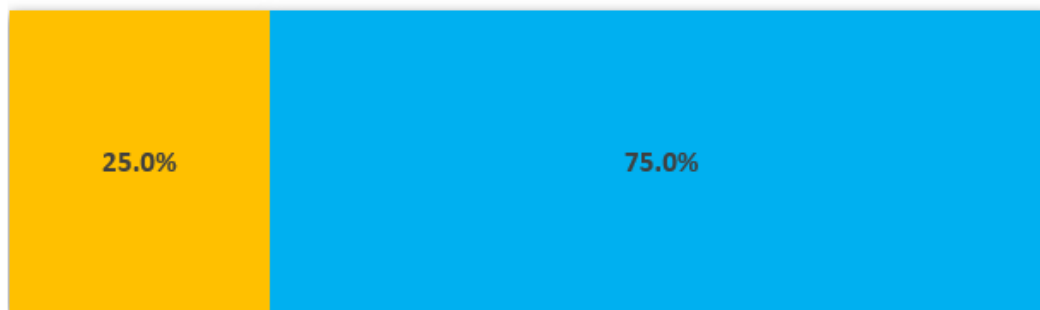
社史制作中に困ったこと

5位 経営層との調整・コミュニケーション

社史を作るということは、会社の経営を振り返るということでもあります。ということは経営層が社史に関してどういう考えや思いを持ち、どうやってほしいのかをしっかりと把握しておくことは大切になってきます。

さらにどの時点でどういう状態で経営層に内容を確認してもらうのが非常に大切になり、ここを怠るといきなり内容がひっくり返るということが起こります。経営層と可能な限りやり取りのできる環境を作っておくことが社史づくりでは大切だと言えるでしょう。

■ 困った ■ 困らなかった



—ご担当者様の感想例—

「トップの意向は汲み取らなければならないので、やらないとは言えなくて、代わりに制作会社からトップに言ってもらえて助けられたことがあった。」

「トップの思いが伝わっているか確認が必要だったが、何回も見せるわけにはいかない。ある程度出来上がってから見せるしかないのだが、見せると構成が変わってしまうので大変だった。」

「社長に『プロはどう言っているか?』と聞かれて、編集担当者に聞いて答えたら納得してもらえた。大変助かった。」

※ヒアリング調査実施企業数・・・201社

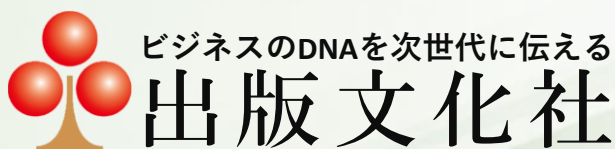
(本資料使用上の留意点について)

本資料は当社が独自に収集したデータを基に作成しております。その正確性と最新性の確保に努めていますが、完全性を保証するものではありません。調査、分析、統計処理等によってその都度データを更新する場合があります。当資料の内容に関するいかなる間違い、不掲載についても一切の責任を負うものではありません。資料に示したすべての内容は、当社の現時点での判断を示しているに過ぎません。利用に際しては御自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。その他、当資料の取り扱い事項は当研究所の会員規約に準じます。

(著作権について)

本資料は当社の著作物であり、著作権法により保護されております。
当社の事前の承諾なく、本資料の全部もしくは一部引用または複製、転送等により使用することを禁じます。

- 組織情報 -



【代表者】
代表取締役社長 浅田厚志

【創立】
1984年2月6日

【資本金】
99,234,300円



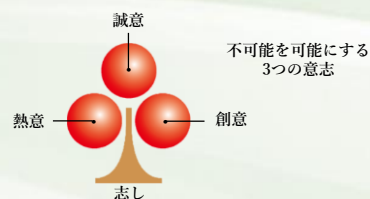
【東京本部】
東京都中央区新川1-8-8
アクロス新川ビル4F
TEL：03-6823-6820 (代)

【大阪本部】
大阪市中央区久太郎町3丁目4-30
船場グランドビル8F
TEL：06-4704-4700 (代)

【名古屋支社】
名古屋市熱田区五本松町7-30
熱田メディアウイング3F
TEL：052-990-9090 (代)

Learning Organization

豊富な実績を基に多様な社史・記念誌づくりを提案します。
編集は自社内で一貫して行っています。
専門家＝アーキビストが常駐しています。
品質管理、情報セキュリティのISOを取得している日本唯一の出版社です



-社史とアーカイブに関する日本初、唯一のシンクタンク-



社史・アーカイブ総合研究所

CORPORATE HISTORIES AND ARCHIVES RESEARCH INSTITUTE

社史・アーカイブ総合研究所は『社史・記念誌の有効活用と、ビジネス・アーカイブの普及への貢献』という大きな目標を掲げ、2019年に設立した専門研究機関です。社史とビジネス・アーカイブに関する情報の収集、コンテンツの企画と発信を行っています。

運営組織 社史・アーカイブ総合研究所
英文 Corporate Histories and Archives Research Institute
代表者 小谷允志
設立 2019年10月1日
研究員数 10名(東京6名・大阪4名)